



富山縣營愛本發電所 工事着々進行す

小山田生

黒部川水系に於ける富山縣營⁴發電地點のうち工事實施上最も有利な條件を具備してゐる愛本發電所の起工式が、去六月二十六日に舉行せられた事は、先に本誌九年八月號に報告したが其後着々進行中で、現場觀察の上其一部の寫真を入手したので、簡単な説明と共に掲載することにした。

寫真第1は第一號横坑附近の寫真で右方川岸より上部に登る軌道は沈砂池の土捨用斜軌道である。中央に直立する鐵塔の下は横坑入口であるが、地積もなく且つ洪水面以下にな

るので、コンクリートを以て四方を圍み、其上に鐵塔を建て、エレベーターで土砂の搬出及諸材料の搬入をする。鐵塔上部は棧橋によつて土捨場及材料運搬軌道に連絡されてゐる。中腹にある建物附近に横に見える一線が其軌道で、之は日本電力會社の工事用軌道であるが、本工事の諸材料運搬にも使用される

のである。

写真の2、つまりこの頁の上は黒部本流に於ける取入口堰堤工事場の假締切工事を上流より見たる写真で、右方には前の写真にある斜軌道及中央稍左寄りに横坑のエレベーターが見られる。締切内にある木塔は土砂を對岸の土捨場に運搬する索道である。

下の写真は同じ假締切内の工事場を下流側から見たるもので左上方が土砂運搬索道の木

塔である。各隧道及發電所土工等も着々進行中であるから、追て機會を得て報告することにしよう。因みに本發電事業費の總額は、金8,439,000圓で、發電力29,700キット、昭和11年6月までに完成される豫定である。

× ×

× ×

